

## 「0.6倍なら100に…」と考える・値させる。割合

算数は系統性の強い教科。新しい数や図形に出合ったとしても、既習や生活での慣れに帰着しようとするれば、解決できたり理解しやすくなったりする。

みさきさんの学校の5年生  
125人のうち、運動クラブに入  
った人は75人、文化クラブに  
入った人は50人でした。  
運動クラブの人数は、5年  
生全体の人数の何倍ですか。

$$75 \div 125 = 0.6$$

A 0.6倍

0.6倍? 「倍」と言われれば、数が大きくなるようなイメージがある。全体が「1」だから小数倍になるのはしかたないけど…。  
0.6倍? ..分がりにくい・イメージしにくい…。

## 「整数だったら100に…」

\*全体を「1」としなければ、整数になりそうだ。

### ■全体が「100」だったら。

$$\begin{array}{r} 1 \dots\dots 0.6 \\ 100 \dots\dots 60 \end{array}$$

- 全体を100と考えるのは、テストの点と同じで慣れているから、大きさがイメージしやすくなる。
- 全体が100だったら、整数で考えられて分かり易くなった。

### ■全体が「10」だったら。

$$\begin{array}{r} 1 \dots\dots 0.6 \\ 10 \dots\dots 6 \end{array}$$

- 全体を10と考えるのは、両手の指の数と同じで慣れているから、大きさがイメージしやすくなる。(10の束)
- 全体が10だったら、整数で考えられて分かり易くなった。

- \* 約束なく、勝手に数を変えてはダメだ。
- \* これまでも、数を変えたときには、単位も変えてきた。
- \* ここでも、数を変えたことが伝わるような表現にする必要がある。

### ↓ 大切にしたい意識の流れ ↓

【100倍したことが伝わる表現】  
「百分率」・・・%

【10倍したことが伝わる表現】  
「歩合」・・・(割・分・厘)

「表現方法は、決まっているもの!」と考えさせない工夫が必要である。今後、子供たちは、様々な新しい事象に出合っていく。その際、人として、分かり易い・簡単である・便利である・正確である・・・という視点で、新たな表現・処理方法を創り出さなければならない。我々にはそんな資質や能力を育てておく責任がある。